

佐伯・延岡観光協会 9月2日から

7/8 豊漁安全祈願 参加店に認定証交付

佐伯と延岡の「県境を越え連携して取り 道・伊勢えび祭り」が、両市観光協会が「組む「東九州伊勢えび海」今年も9月2日から始ま



伊勢えび祭りの盛況を期して「エビ、エビ、オー」

る。その豊漁・安全祈願祭と参加店への認定証交付が27日、佐伯市蒲江であった。関係者45人が集い、豊漁と盛況を期して「エビ、エビ、オー」と氣勢を上げた。

ールしようと平成16年から始まり15回目。参加店は同海道憲章にのっとりた料理を出す。参加店で伊勢えび料理を食べた人は、さらにイセエビがもらえる抽選会に応募できるなどの特典がある。今年は昨年と同じ28店舗(佐伯21、延岡7)が参加する。

この日は、蒲江西野浦の早吸日女(はやすひめ)神社で豊漁・安全を祈願した後、近くの仲川原集会所に移動。参加店を代表して、かまえインターパークで「海のレストラン笑魚」のチーフを務める富澤恭一郎さん(33)と、延岡市須美江町で民宿紺碧(こんぺき)を営む甲斐宏明さん(35)に、橋本正恵佐伯市観光協会会長と谷平興二延岡観光協会会長がそれぞれ認定証を手渡した。

両地域が一緒に盛り上がるように頑張ろう」とあいさつした。昨年の実食数は9369食(佐伯5392、延岡3977)で1万食を割った。大分県マリンカルチャーセンター(佐伯市)が休館していることや、台風被害でJRが一時不通となった影響で、佐伯側の利用客が減少した。今年は一昨年並みに戻したい考え。民宿紺碧の甲斐さんは「祭りは年々浸透してき



田代(左)と甲斐(右)が、伊勢えび祭りの準備作業中。田代(左)は延岡市須美江町、甲斐(右)は佐伯市須美江町。

豊堤紹介し延岡をアピール

7/28 守る会 全国水防大会で意見発表

全国水防管理団体連合会(協雅文会長)の平成30年度全国水防大会がこのほど、東京都千代田区の砂防会館で開かれ、延岡市の「五ヶ瀬川の豊堤を守る会(木原万里子会長)の上田耕市副会長(64)が意見発表した。

同連合会は、水防体制の強化・充実を目的に都道府県と全国の水防管理団体で組織しており、水防大会は毎年1回開催。

全国の水防関係者が一堂に集い、出水の際に顕著な活動をした水防団員や

永年勤続者を対象とする水防功労者表彰、前年度全国で発生した災害の情

報共有などを行っている。守る会には、国土交通省を通じて意見発表の依頼があった。水防功労者

表彰では16府県の消防団・水防団団長ら37人と5

市町の消防団を表彰。表彰された鳥取市消防団が

体験談を話した後に、上田副会長が登壇した。

豊堤の管理者で、守る会の活動をよく知る国交



上田耕市副会長



全国の水防団体が興味深く聞いた

省延岡河川国道事務所が作成した資料を見せながら20分間発表した。

延岡市の水害の歴史、豊堤の仕組みや造られた理由、後世に残すために同会がどのような活動をしていくかを紹介した。

上田副会長は、当時の人々が豊で自分たちの町を守るということを考え

て実現したこと、素晴らしさ、現在もそれが残っていること、先人が残したものに私たちの暮ら

らがあることなどを話した。

「全国の水防関係行政と団体が集まっており、関心を持って聞いてもらえた。豊堤だけでなく延岡という町全体について

しっかりとアピールできたのでは」と手応えを感じていた。

延岡市の長浜と方財海岸はかつて「毛なし浜」と呼ばれる砂浜でつながり、大瀬川は方財町の

前で北上して五ヶ瀬川の狭い河口に流れ込んでいた。豪雨が降ると河口から流れきれずに逆流し、

市街地にあふれてしま

う。このため豪雨のたびに、地域の消防組が毛なし浜を開削して、水の道をつくる危険な作業が行われていた。五ヶ瀬川の

豊堤は、豊をはめ込むことで、堤防が60センチ上がる。毛なし浜が開削されるまでの時間に、市街地を守るために考案された施設と考えられている。

カネ 後援会の全員 市内外のファン約40人が出席して祝った。7月場所は3勝12敗という厳しい成績。来場所は十両陥落も否めないが、琴恵光関は「忘れ物を取りに行く。来場所は十両優勝を狙う」と捲土重来(げんどうちようらい)力強く言い切った。主催は、琴恵光延岡後援会(稲田義美会長)。

琴恵光関



琴恵光関と佐渡ヶ嶽親方を囲み、清本延岡商工会議所会頭、平田・平田東九州病院院長らが地酒千徳のため鏡開き

集まっていたが、誠にありがたうございませう。また準備していた後援会の方々、スタッフの方々、ありがとうございました。今場所の成績は良くなかったのですが、すこ

大相撲祝賀会

琴恵光 十両優勝して幕内に

力強く宣言 出席者 これまで以上に応援する

も師匠やおかみさん、お集まりの皆さまのおかげです。まだまだ頑張ります。来場所は十両になりませんが、忘れず、勝つて負けて常々楽しい。勝つた負けたで一喜一憂している。15日があつたという間です。彼が土俵に立つと、勝つても負けて旭小1年の染矢侑介君から花束と激励の言葉が贈られた。冒頭、稲田会長は琴恵光のこれまでを振り返りながらあいさつ。11年かけて念願の幕内昇進を果たしました。県内で44年ぶり、延岡からは51年ぶりの快挙です。初土俵から500回も土俵を務めました。一度も休場したことがありません。褒めてやってくださう」

物をしたので取りに帰ります。優勝してまた幕内に戻ります」と力強く宣言した。

壇上では琴恵光関と佐渡ヶ嶽親方を囲んで、稲田会長や来賓の代表が鏡開き。1、2のヨイシヨの掛け声に合わせて地酒のたのびで祝宴がスタート

呼び掛けた。県商工観光労働部の井手義哉部長は、壇上であいさつ。途中から出張中の河野俊嗣知事のビデオメッセージを



あいさつする琴恵光関。十両で優勝して幕内に戻るといふあいさつに会場からは大きな拍手が湧き起こった



琴恵光関の両親が佐渡ヶ嶽親方夫妻に花束を贈り、互いに感謝し合った

力強く激励し、師匠の佐渡

「琴恵光おめでとう、番付はわりじやなくがある。最低

最高で横綱です。稲田会

今場所は3条を上げられな

聞きました。発がしけらな

そして、九州幕内で帰つてうに琴恵光をます。今後もよろしくお願す」と親方ら王アいっぱい

つした。エンディン

選出江藤拓衆

音頭で「ガン

唱。出席者全

向かって力強

を突き出し、

の健闘を祈っ